



2025年冬期 | Vol.32

AJWCEF

NEWS LETTER ニュースレター



オーストラリア日本野生動物保護教育財団会 員及びご支援を頂いております皆様へ

オーストラリア日本野生動物保護教育財団
理事長 水野 哲男

皆様におかれましては、平素よりオーストラリア日本野生動物保護教育財団（AJWCEF）の活動にご理解とご支援を賜り誠に有難うございます。

本年、日本では北海道、本州ほぼ全域、さらに四国の一部でクマの目撃情報があり、人への被害も過去最多となっていると報道されております。お怪我をされました方々、また残念ながら命を失われた方々に、心からお見舞いとお悔やみを申し上げます。このような痛ましい事故を防ぐため、政府や地方自治体は捕獲や駆除の対策を講じているようですが、野生動物保護を目的として活動している身としては、現状の対応にはより広い視野による検討が必要であると考えております。

まず、日本の鳥獣の保護および狩猟の適正化に関する法律にあるように、野生生物の絶滅という生態学的リスクと人間社会に対する被害の発生（社会的及び経済学的リスク）の両方を最小限に抑えるため、現在の日本の自然環境とクマの生息域に見合ったクマの適正個体数の管理においては、一部の個体の駆除もやむを得ないと考えます。ここオーストラリアでも、カンガルー類の適正個体数は約2000万頭とされ、年によってばらつきがあるものの、年間約200万頭のカンガルーが淘汰されています。

日本におけるクマの人里への出没はここ数年増加傾向にあり、いくつかの原因が考えられますが、主にクマの生息域のエサ不足だと言われています。ここ数年はクマが冬眠前に必要とするクルミやブナの実が少なく、特に今年は大凶作とのこと。空腹のクマたちが食べ物を求めて人里へ出てくる機会が急増し、次第に人間社会に慣れてしまったと推測されています。

オーストラリアにはクマ類はおりませんが、何種かの危険な動物が生息しております。カソワリ（ヒクイドリ）はその内の1種で、クイーンズランド州北部の熱帯雨林に広く生息し、成獣では体高が2mにも達する巨大な鳥です。特に雌は雄より大きく攻撃的で、足の大きな鋭い爪によるキックにより致命傷を受けることもあります。2006年と2011年（その後も時々）に大きなサイクロン（日本という台風）が襲い、カソワリの生息域である熱帯雨林が破壊され、主食である森の果実がほとんど地面に落ち、腐敗してしまいました。それにより、カソワリが食べ物を求めて人の生活圏に出没し始めたため、クイーンズランド州政府は直ちに生息域に2006年60か所以上、2011年100か所以上のフィーディングステーション（餌場）を作り、全国から購入また善意で送られたフルーツで満たすことでカソワリの飢餓を防ぎ、同時に人間社会へのリスクを回避しました。この時、人里に迷い込んだカソワリが駆除されたというニュースは耳にしておりません。

日本政府はなぜこのような先例から学び数年前から始まったクマのエサであるクルミやブナの実の凶作に適切に対応できなかったのか。現在においても議論にも上らず駆除による対策ばかりを進めているように見え、大変残念に感じております。AJWCEFは少しでもより良い地球環境を次世代へ残していくため、これからも「人と自然のより良い共生」を目指し活動してまいります。どうか皆様の末永いご支援をお願い申し上げます。





2026年春期 トレーニングコース開催日 (臨床 / 基礎 コース)

第2次募集期間: 12月1日～2026年1月31日

第1回 野生動物保護 臨床トレーニングコース	参加者 受付中	3月1日(日) - 3月9日(月) 9日間
第2回 野生動物保護 基礎トレーニングコース	参加者 受付中	3月10日(火) - 3月20日(金) 11日間



次の開催は2026年夏期(8-9月)、募集開始は5月から予定しています。

詳しくはHP <https://ajwcef.org/> お問い合わせ ✉ training@ajwcef.org



応用トレーニングコース体験記

2025年8月13日-8月21日

大学高学年生、獣医や教員など13名が海洋と陸上の野生動物保護のより専門的な知識と技術を学びました

応用トレーニングで学んだこと

今回、応用コースに参加させていただきました。前回参加させていただいた基礎コースとは違い、海洋面からのアプローチについても学ぶことができ、より専門的な内容を知ることができた貴重な体験になりました。

前半はノースストラッドブローック島にて、二つの海岸でゴミ拾いを行いました、事前にプラスチックゴミが環境に与える影響についてレクチャーしていただいたこともあり、より活動に力が入りました。場所によってゴミの種類や大きさが異なるのもとても印象的でした。綺麗に見える海岸でも、拾ってみると多くのゴミが回収され、特に細かくなってしまったプラスチック片が回収しきれず、環境への深刻な影響を実感しました。島では、鳥やクジラやイルカ、コアラなど、たくさんの動物を間近に観察することができました。さらに海の中の動物プランクトンの多さや種類の豊富さにも驚かされ、普段は見ることのできない動物達に出会えた喜びがすごかったです。

後半のカランビン野生動物病院では、油汚染された鳥類の処置、ダーツガンの練習、コアラの解剖、野生動物救急車内の見学など実践的なことを学ぶことができました。処置や練習、搬送など、どの場面においても、動物について理解した上で、保定の仕方、ストレスや傷つけることなく迅速に行うなど、考えるべきことが多くあることを強く感じました。

今回の研修で、文面ではなく、実際に見て聞いて、身体で感じ、実際に体験したからこそ一つ一つが印象深く、感動するものになりました。様々な背景を持つ人たちが参加していたことも、自分とは異なる視点からの質問や見方を知ることができ、様々な分野の方とのつながりの大切さも感じることができました。現在ワーキングホリデー制度を利用してオーストラリアに滞在しておりますが、コースに参加させていただくたびに動物に対して自分ができることややりたいことが広がっているのを実感しています。今回も大変貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

佐藤 信乃

基礎トレーニングコース体験記

2025年8月25日-9月4日

獣医学大学生を中心に現役獣看護師など12名が参加し、
ゴールドコーストにある野生動物専門施設などで学びました



母国の野生動物共存について得た気づき

まず、動物の展示方法や野生動物との距離感に驚きました。共生の方針を国が掲げ、野生動物の知識を国民全体が共有することで共に暮らせていることや、積極的に贈られる寄付金によって施設の運営が成り立っていることが非常に興味深かったです。保護したコアラに名前をつけることも、野生動物を身近に感じつつ敬意をもって接することに繋がっているようで素敵な文化だと思いました。日本では里山が崩れはじめており、野生動物との共存について考える必要がでてきています。方針は違えど、国民全体が好感をもって野生動物を知り、共に生きようとする姿勢を日本も学ばなければならないと思いました。

また、はじめて会う人と共同生活を送るなかで日本人同士でも異なる価値観を知る良い機会になりました。オーストラリアのスーパーを回っていると生活文化を垣間見ることができて楽しかったです。

他にも英語による会話を試みて、自分の英語力を試す経験ができました。コース中はスタッフの方が通訳をしてくださるので困ることはありませんでしたが、英語をもっと自由に使えればより学べるものがあつただろうとも思うと悔しいです。

野生動物保護を中心に今回は様々なことを知りましたが、そこから関連してオーストラリアや日本、その他の国の経済、文化、思想についてより理解しなければ総合的な解決に繋がらないことを痛感しました。それぞれ良いところや考えていかなければならない課題があり、オーストラリアのこんなところがいいからそのまま日本に輸入すればいいというわけではありません。日本にあった方法を探していきたいです。将来の進路に悩んでいますが、少しでも日本や世界が抱える課題の解決に貢献したいという思うようになりました。オーストラリアと日本では価値観や文化、環境が異なり、オーストラリアの事情を知る一方で海外と比較した日本の姿を知る貴重な経験でした。

匿名



AJWCEF で検索

フォローお願いします!!!



instagram



日常に野生動物保護活動が当たり前であることを実感

今回のツアーに参加したことで得られた経験や学びはとて多かったです。実習のみならず、オーストラリアの日常生活の一片も体験できて有意義な10日間でした。

オーストラリアの固有種を扱っているディビットプレー野生動物公園では、まず日本では見られない動物たちを間近で観察できるだけでなく、飼育作業の一部を体験できる貴重な機会でした。

初めて見る動物たちの習性や特徴を知れただけではなく、動物公園全体の飼育環境から日本とは異なる点に、今までの常識が覆され、物事の捉え方がアップデートされたように思います。

実習で担当してくれた飼育員スタッフの方々は、きっと大変なことも多い中でもどの方も動物に対する配慮と愛に溢れており、とても心を動かされました。

RSPCAやカランビン野生動物病院では、オーストラリア動物の現状と課題を踏まえてお話を聞くことが多かったですが、その中でボランティアの方々の存在の大きさを感じました。一般住民の方々が主体的に地域の動物を保護したいという想いや情熱が表れていて、日々の生活の中に野生動物保護活動が当たり前にあることがとても素敵だと思います。

また、ここでは動物の習性や飼育環境の特徴を学べただけでなく、野生動物の獣医学に関する知見も深められました。本ツアーを通して、いろいろな方とお話できたことで仕事に対する考え方や今後の選択肢が広がったので、参加して本当に良かったです。お世話になりました！

Y.

オーストラリアと日本の価値観の違いから学ぶこと

UQの見学では、何を求めるために大学へ来ているか、学生の目的意識がはっきりしていました。自分の学びたいことを学ぶため、人生をより良くするため、夢を叶えるために大学へ通っている平均約30歳の学生の存在は、日本では考えられず、非常に魅力を感じました。

私は動物のなかでも野鳥が特に好きですが、カランビン川のカヤックでは多くの野鳥を見ることができ、思い出に残りました。濡れても大丈夫なコンパクトの双眼鏡を持っているとより良かったなと少し後悔しています。

RSPCAのように、日本でも動物を守れるような体制が整うと良いなと感じました。

教育に力を入れるなど、学んだ価値観などを共有したいと思います。

カランビンワイルドライフパークで行ったコアラの解剖ですが、最も良い経験であったと思います。解剖自体が今回が初めてで、緊張していました。しかし、興味深いお話が多く、どんどんのめり込んでいきました。帰国してからは積極的に解剖に参加しようと思いました。

大変充実した12日間でした。支えてくださったAJWCEFの皆様、ありがとうございました。

早川 瑠美

会員募集(個人・法人)及び寄付のお願い 皆様のご支援が小さな命を助けます。
詳細は、AJWCEFのサイトwww.ajwcef.org『入会・寄付』のページにお進みください。





AJWCEF 活動報告

(2025年6月から2025年11月まで)



トレーニングコース

- 8月 1日－10日 北里大学 獣医学科 オーストラリア臨床研修
8月13日－21日 AJWCEF野生動物保護救護 応用トレーニングコース
8月25日－9月4日 AJWCEF野生動物保護救護 基礎トレーニングコース

スタディーツアー

- 7月19日－28日 大阪府 某公立高校 オーストラリア語学&サイエンス研修
8月14日－22日 岐阜県可児市 可児っ子訪問団 オーストラリア研修
9月7日－17日 岐阜医療科学大学 オーストラリア語学&看護実習
9月8日－15日 日本獣医生命科学大学 オーストラリアスタディーツアー
9月23・24日 YIC京都ペット総合専門学校 動物施設訪問&研修
9月26日 アワーズAWS動物学院 動物施設訪問&研修
11月3日－6日 神奈川県 某公立高校 オーストラリア研修



オンライン講座

- 4月－6月 (全10回)
北里大学 オンライン専門英語講座／渡航前研修
5月－8月 (全8回)
仙台ECO動物海洋専門学校 前期
11月－ (全8回)
仙台ECO動物海洋専門学校 後期
4月－10月 (全15回)
TCA東京ECO動物海洋専門学校
10月22日
札幌市立大学 オンライン国際交流会
「オーストラリア留学体験～太陽の州、大自然
と都会が調和したフレンドリーな街・ブリスベン」 with UQ students

特別講義

- 2025年10月30日
東京都 某私立高校 現地大学訪問
&AJWCEFセミナー「オーストラリアの
野生動物保護と国際関係」
AJWCEF 水野 哲男

寄付

- AU\$1,700 to
Wildlife Rescue, Rehabilitation
and Education Association
AU\$300 to Bats Qld



やってみよう！ 翻訳ボランティア！（会員限定）

- ✓ 英語力アップに！
 - ✓  のレアな話題に触れよう
 - ✓ 添削アリだから英語不安でもOK！
- オーストラリアの野生動物関連ニュースを翻訳してAJWCEFブログで発信するAJWCEF会員限定ボランティアを募集しています。（ペンネームOK）
すでに会員の方もこれから会員になって翻訳ボランティアをしたい方も、
✉info@ajwcef.orgまで「ボランティアについて」とお問い合わせください。
お待ちしております！



File 4.

野生動物雑学ラウンジ

NEWS

Japan asks army to cull bears after spike in attacks on humans



A brown bear family is pictured at the Shiretoko Peninsula in Shari Town, Hokkaido. (AFP: Ryoichiro Kida / The Yomiuri Shimbun)

In short:

Japan's military could be asked to help cull bears amid a record number of fatal attacks.

The governor of Akita says he will make the request this week, following scores of reported attacks in his region.

Food shortages and a lack of bear hunters are thought to be bringing the animals in closer proximity to humans.

今回は日本での熊被害の深刻化について、オーストラリアで報道されているニュースをご紹介します。

オーストラリアのメディア（ABCニュースやSBSなど）は、日本でクマによる人身被害が過去最多レベルに達していることを事実として伝えています。各報道では、クマの個体数増加、餌不足による人里への出没の増加、駆除できるハンター不足、そして住民の安全を守るための規制緩和に焦点が当てられています。

右側のスクリーンショットは10月28日にABCニュースが掲載した記事。全体として、感情的な論調ではなく、人と野生動物の衝突全般の状況説明を中心とした比較的中立的な内容になっていました。

その中でもオーストラリア人にとっては珍しく、少し違和感のある話題は「自衛隊が野生動物駆除」に参与していること。オーストラリアでは、野生動物管理は原則的に＊州政府・準州政府＊環境・農業関連の行政機関＊民間の専門業者＊認可を受けたハンター・レンジャー＊が行い、軍は担当しません。但し、間接的に大規模災害時の＊輸送(ヘリ・車両)＊人員派遣＊ロジスティクス支援＊洪水・森林火災後の復旧支援＊などを行い、専門家や州政府職員を運ぶ・支える役割を果たします。ですので、国内行動/国内での武器使用がタブーとされるオーストラリア軍が野生動物を駆除する発想自体がオーストラリア人にはかなり異例に映るよう。

「Japan asks army to cull bears after spike in attacks on humans－人身被害の急増を受け、日本が自衛隊にクマ駆除を要請」という表題もそのような背景からつけられたものなのでしょう。

AJWCEF会員募集！

AJWCEFは、オーストラリアの野生動物保護と環境保全を目的に活動する非営利団体です。オーストラリアと日本をつなぎ、共生的な保護活動を広げていくため、支援して下さる会員を募集しています。会費は野生動物保護・救護団体への寄付や教育・研修活動の運営に役立てています。会員になってくださった方には、トレーニングコースへの優先申込やニュースレター配布、ボランティア活動への参加など特典があります。会員資格は1年毎更新、会費5000円～です。詳しくは弊団体ホームページ上「入会・寄付」をご覧くださいのうえ、ご登録をお願いします。

Thank you for your support!



AJWCEF

ニュースレター発行

オーストラリア昆本野生動物保護教育財団本部事務局

発行責任者 水野 哲男

編集担当 マラーしの / クリス 悠子

ホームページ www.ajwcef.org

住所 PO Box 1362 KENMORE, QUEENSLAND, 4069, AUSTRALIA

電話 + 61 7 3195 4749

AJWCEFの最新情報は



@ajwcef_official



@friends.of.ajwcef